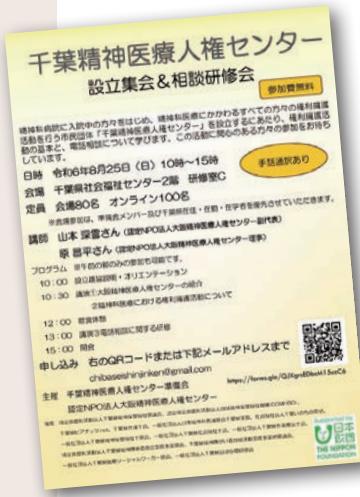


千葉精神医療人権センター設立集会＆相談研修会開催

千葉精神医療人権センター準備会世話人 池澤 直行



令和6年8月25日（日）千葉県社会福祉センターにて、日本財団と認定NPO法人大阪精神医療人権センターのご支援をいただき「千葉精神医療人権センター設立集会＆相談研修会」を開催しました。講師には、大阪精神医療人権センターから山本深雪さんと原昌平さんをお招きし、大阪での取り組み、精神科医療における権利擁護の考え方、そして具体的な相談の進め方についてグループワークも交えながら講演いただきました。

定員を会場80名、オンライン100名と設定しましたが、定員ぎりぎりの169名もの参加申し込みがありました。特に、千葉県内からの申し込みが120名近くにも上ったことや、会場の並々ならぬ熱気に満ちた雰囲気などから、千葉県に精神医療人権センターが設立されることへの期待感が高まっていることを実感しました。

設立集会を開催するにあたっては、課題認識や基本的な考え方を共有することはもちろんですが、「できるだけ多くの県民に、この事業を知ってもらいたい」ということと「この趣旨に賛同してくれる仲間を集めたい」という2点が大きな趣旨でした。そのため、開催前から県内の職能団体や関係団体に、準備会



期待して
います！

相談研修会講師より



往路は落雷により特急が運休し、帰路は新幹線が途中何度か計40分停車と、どきどきしました。会場では千葉の皆さんのが熱気を感じました。

千葉のピアソーターの方は「中にいる人の話を丁寧にきくことです。本人の力でスタッフに話していくように見守ります」と廊下で話してくれました。参加者の方たちの「精神科がこのままではあかん。人として大事にしていける関係づくりを模索していくぞ！」というパッションを熱波のように受け取りました。期待しています。（山本深雪）

メンバーで手分けして後援依頼をし、必要であれば説明に出向くなどして周知に努めました。

設立集会当日は、会場の方は比較的スムーズに進行できたと思いますが、オンラインは通信環境により音声が途切れたりし、ご不便をおかけしたことは申し訳なかったと思います。

講師の山本さんと原さんは、大変わかりやすく充実した内容のお話をしてくれたり、アンケートでも大好評でした。これまで取り組んでこられた経験の深みが話の端々から感じられ、「言われてみれば確かに…」とすんなり腑に落ちる感覚が聴いていて心地よかったです。私自身も初めて聞く話が多く、学ぶところの大きい研修でした。

そして最後のアンケートでは、回答者の多くが、いろいろな経験や思いを抱えており、それらを率直に書いてくださっていたのがとても印象的でした。

さらに嬉しかったのが、お名前や連絡先を書いてくださった方が 64 名（千葉県内だけでも 48 名）もいたことです。これだけの方が私たちの活動の今後に关心を寄せてくださっていることは本当に心強いです。

このあと 9 月 7 日の設立総会を経て、千葉精神医療人権センターは正式にスタートします。そんな門出にあたって、強力に支援してくださった大阪精神医療人権センターと日本財団の皆様、交流を通じてさまざまな助言や励ましをいただいた全国の精神医療人権センターや関係者の皆様、後援してくださった団体の皆様、そして今回残念ながら参加できなかった方も含め私たちの活動に关心を寄せてくださる全国の皆様、本当にありがとうございました。

▼相談研修会講師と筆者（右端）



千葉精神医療人権センター
パンフレット



エネルギーを感じる集会だった。千葉県社会福祉センターの会場参加だけで 70 人余り。当事者、家族、福祉職、看護職、行政職、弁護士などメンバーは多様で、すぐにも本格的な活動を展開できる力量がありそうだ。山本深雪さんは大阪の人権センターの歩みと活動内容、面会時の心がけ、私は精神科の権利擁護の必要性を話した。「病院訪問活動は、行政の実地指導とどう違うのか?」といった質問も出た。

千葉は大きな県だ。人口 627 万人は全国 6 位。精神科病院の数も 52 と多い。東京に隣接する大都市部もあれば、自然豊かな房総半島も、銚子、野田のように地理的にとんがった地域もある。

中心メンバーの 1 人は「電話相談で要望があつたら、もちろん面会に行く。県内の全病院を回りたい」と意欲満々。地域事情によって、活動のあり方はいろいろあってよい。創意工夫で、新しいスタイルの活動が生まれることも期待できそうだ。（原昌平）